

小笠原返還50周年 先輩の足跡

田中 正和 陸士60

昭和43年6月26日、戦後20数年にわたりアメリカの占領下にあった小笠原諸島が、我が国に返還された。この返還から今年で丸50周年、現地では記念の行事が行われた、と報道にあった。

この返還に際し、行政の現地総合事務所の所長として、その任に当たられたのは、誰あろう、塩田章さん（前借社行社副理事長、陸士59、広幼先輩）である。

塩田さんは、当時自治省から兵庫県財政課長として出向されていたが、白羽の矢が立てられ、自治省事務次官から直接指名された由。しかも次官は戦になぞらえられ「戦争に行け」と。怪訝そうな塩田さんに「今から限られた時間に、行政機関の装備、編成、現地への所要物資の輸送等々、上陸作戦の担当参謀以上のことを処理せねばならないからだ。その覚悟でことに当たってくれ」だった由。「家族とも相談してくれ」に、帰りの新幹線の車中で「よし、行く」と決心された。

返還式当日は、政府代表田中総務長官、美濃部亮吉東京都知事も返還式に

臨まれたが、2日前に到着されていた塩田さん以下のスタッフは、準備に大童、無事返還式を終えられた。

星条旗が下ろされ、きびきびした動作の海上自衛隊隊員の手で日の丸が掲揚された時の感激は、終生忘れることはない、本人は言っておられる。

また当日は記録に残る酷暑だった。ご本人は約2年間の勤務を終えられ、自治省に帰任されているが、帰任早々に、かねて想いを練っておられた『小笠原の思い出』なる小冊子を執筆され、一緒に苦労されたお仲間、残って勤務されるお仲間に贈られた。私も一冊いただいた。その中に、色々の苦勞話が綴られている。少しだけ披露させていただく。

(順不同)
1 先ず返還式当日の米軍との時刻調整。派遣米軍の上部機関はグアム島にあり、サマータイムに1時間の時差で計2時間のずれがあった。おまけに派遣米軍は返還式終了後、グアムでの慰労パーティーの開始時刻も決められており、その時刻をすらすらする必要もあった。

2 3回通信往復の後、ようやく日本時刻に合わせられた。
2 塩田さんは、「男ばかりの所帯での遠隔地勤務」に、初代南極越冬隊長、西堀教授の書かれた「本」を参考に読まれた。越冬隊員が麻雀牌を持ち込んだ

でいたのに大変不快だったとあった。当方そこまでの聖人君子の類ではないからとて、持参荷物に欠けていたので、ぜひにと所望されて追加、悲喜劇(?)はあったようだが、仲間内の潤滑油には欠かせなかった。

3 旧軍時代の作戦要務令も、指揮官の要諦はじめ、各所に活用されたところ。
4 塩田さんは猛烈な「広島カープ」のファン、カープが優勝した時はお祝いに紅白饅頭を作って配られる程。小笠原赴任にあたっては、当時のカープ根本監督以下全ナインの寄せ書きも贈られ、スポーツ紙にも掲載された由。

5 かの激戦地で有名な、映画化もされた硫黄島も、小笠原諸島。
兵庫県議のお一人から「兄貴が硫黄島で戦死した。老母のために硫黄島の土を送っていただけませんか」に直後硫黄島に行かれ、約束を果たされた。

6 当時の通信手段は、手紙のほか、最速は電報、それも銚子の中継局経由、「カタカナ」なので読み間違いもある。トップは某省から「コンドゴ

メイヲハケンスル」に、5名は要らないと返電したところ、人の名前が五明氏で5名ではないというので一件落着。

電報で微笑ましいのは、返還式当日、神戸在住の塩田さんの幼い二人のお嬢さんから「フレ、フレ、パパ、バナナノコセ」、激励とおねだりでしょう。島内電話もこの年9月に漸く使えるようになった。



広島カープ優勝!! (赤のユニフォームが表現できず申し訳ありません…編集)

7 ソフトボール、ゴルフ、囲碁。前記麻雀等は、島での娯楽に欠かせなかつた。

ゴルフは距離は短いが、9ホールを整え、クラブ規約、ルール迄きめ細やかに「小笠原ビーチサイドカントリークラブ」と名付けて楽しまれた。

8 所員がボートを手作りされ、進水式、艇名名付け、処女航海とあり、素人にしてもこんな「腕」を持っている人がおられるものだと感じた。

9 盲腸炎を発症した所員が出たときは、どうなることかと心配したが、たまたま来島していたNHK取材班の中から「私が手術しましょう」との申し出、若いのに大丈夫かと不安だったが、手術の手際はお見事。後で聞いたら、大阪大学医学部卒のれつきとしたお医者さんだった。その後は盲腸の手術くらい(?)はできるお医者さんが駐在してくれることになった。

他にも披露したいものはあるが、エピソードはこころ辺でおしまい。

小笠原諸島は、東京から約1000km南の島、東京都小笠原村で、村役場の広報によれば最初欧米人と太平洋諸島民が居住。明治9年にはそれまでの我が国の調査、開拓が認められ、日本領と国際的にも認められた。戦前は人口7千人余だった。

平成23年6月にはユネスコの自然遺

産として登録された。国立公園も結構な面積を占め、「東洋のガラパゴス」ともいわれる。周辺の海域は、珊瑚にも恵まれ、澄み切っている。数年前には、中国の密漁船200〜300隻近くが珊瑚を密漁していたと報じられた。現在交通機関としては、最新の装備を備えた「おがさわら丸」(11035t)が6日に1回就航、飛行場がないので飛行機の便は無い。

海洋国の我が国にとって小笠原は、戦略的にも非常に大事な島、何時までもこの美しい小笠原を守ってゆく必要があると痛感している。

ちなみに、塩田さんは、現在93才、八王子市の老人ホームに入居されています。歩行が少し困難なので車椅子をご使用中です。私が訪ねると大変喜ばれ、いろんな昔話に花を咲かせています。小笠原返還50周年記念行事には参加出来ず残念だったと思います。

なお、塩田さんは別途『会者定離』という本も刊行されていて、そこには、「小笠原の思い出」のほか土官学校時代、防衛庁防衛局長として国会予算委員会での答弁、陸士第59期生会関連、囲碁界の最高峰、呉清源師と4子で打たれた棋譜等が掲載されています。

ご本人の今後の一層のご健勝をお祈りいたします。